

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	2	学校名	岐阜北高等学校
------	---	-----	---------

学校教育目標 (教育方針)	<p>(1) 知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する</p> <p>(2) 確かな学力を身に付け、創造的思考力と主体的実行力とを併せ持つ生徒を育成する</p> <p>(3) 高い志とグローバルな視野を持ち、自身の夢の実現と地域社会の持続可能な発展に貢献できるたくましい実践力を備えた人間性豊かな生徒を育成する</p> <p>(4) 倫理観や規範意識に基づく社会性を育むとともに、他者を思いやる心に富む生徒を育成する</p> <p>(5) 健康維持や体力づくりを推進し、自他の生命を尊重できる生徒を育成する</p>	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<p>「荒野をひらく探究人」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の哲学の礎を築き、粘り強く物事に取り組める生徒 【自分を啓く】 知に食欲になり、主体的・創造的に探究できる生徒 【自ら拓く】 多様な他者と協働し、課題解決できる生徒 【ともに拓く】
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<p>「社会に開かれた教育課程」による「探究人」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 必修科目及び「思考力」「判断力」「表現力」を重視する共通テスト対象科目を学力向上のコア科目(必須科目)として発達段階に応じて配置 生徒の進路志望や興味関心に対応し、学校設定科目を含む多様な選択科目の充実 「総合的な探究の時間」等を通して、地域の課題解決など、自らテーマを設定して探究する学びの推進 各教科等においては、実社会との接点や教科横断的な学びを重視し、「対話的」で「探究的」な「深い学び」の実践 生徒1端末等のICT環境や、県の指定事業等を利用し、地域や外部機関との積極的な連携と協働の実施
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 北高のグラデュエーション・ポリシー（「荒野をひらく探究人」）を理解し、高い志とグローバルな視野を持って学ぼうとする意欲のある生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・ポリシーを柱に、各種行事等の目的を明確にしながら精査し、3年間を見通したより効果的な教育計画を策定する必要がある。 ・進学重視型単位制高校として、新しい教育課程のもとで授業改善を図りながら生徒の学力を高め、進路実現を図る必要がある。 ・県教委指定「理数教育フラッグシップ推進事業」を有効活用し、「総合的な探究の時間」や「学校設定科目」等において、様々な実体験や挑戦の機会を提供していく必要がある。 ・既存の生徒議会や各種委員会の活性化とともに、必要に応じてチームや組織を形成して活動し、より良い社会を創造するための礎となる資質を磨く必要がある。 ・お互いを尊重し、命の大切さを実感できる取組みとして、適切な健康管理、日常の安全対策、生徒に寄り添う支援体制をより充実させる必要がある。 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	<p>(1) 基礎・基本となる学力を確実に習得させるとともに、思考力・判断力・表現力の伸長に努める。</p> <p>(2) 教科間の連携を図り、発展的な学習に主体性を持って取り組める生徒を育成する。</p> <p>(3) 個々の生徒の学力や特性、ニーズ等の把握に努め、個に応じた教科指導を充実させる。</p>
	進路指導	<p>(1) 生徒個々の能力・適性を十分把握し、三年間を見通したキャリア教育を行う。</p> <p>(2) 生徒が自らの生き方を探究し、高い目標を実現しようとする意欲・態度や能力を育成する。</p> <p>(3) 各年次に応じた進路情報を正確かつ迅速に提供し、進路検討を深める機会の充実を図る。</p> <p>(4) 保護者や地域への積極的な情報発信、情報共有に努める。</p>
	生徒指導	<p>(1) 自他の命を大切にする。</p> <p>(2) いじめを許さない学校づくり、学級づくりを進め、生徒一人一人を大切にする。</p> <p>(3) 社会通念上の必要性、人格的自律、法的責任を必要最低限の基準とし、自ら判断し、場にふさわしい行動がとれる生徒を育成する。</p> <p>(4) 教育相談活動を充実させ、個々の生徒に対して適時・適切で具体的な支援を行う。必要に応じて外部機関とも連携する。</p> <p>(5) 生徒心得やガイドラインを周知するとともに、社会通念や時代の進展に照らした見直し・改善を図る。</p>

年度目標				年度末評価(自己評価)				
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D	
学習指導	(1)授業中心の学習指導体制の確立に努めます。1年次の各教科・科目におけるきめ細かな初期指導に努め、基礎基本の定着を図ります。対話型、問題解決型の授業を推進し、改革が進む大学入試に対応できる力を育成します。研究授業や公開授業を通して、さらなる授業改善に努めます。	8	施策Ⅱ-8	①生徒による授業アンケートの分析 ②調査や実力テストの分析 ③教師間の相互授業評価	・1年次の少人数授業やティームティーチングの実施 ・定期考査の問題への観点別学習状況評価の割り当てによる教員の問題検討の活性化 ・計画的な公開授業による相互の意見交流の実施	A	○対話型や問題解決型の公開授業が実施できた。 ○学習評価が様々な面から行われていることを生徒に理解されるようになった。 ○校内テストで学力別分析が細かく検討された。 ○教員が他教科を授業参観する機会が増えた。	A
	(2)発展的な学習を位置づけ、教科間で連携して教科横断的な学習を推進します。学校外での活動を単位化し、生徒の主体的な活動を支援します。ICT機器を運用・整備し、機器を利用した授業の充実を図ります。	9	施策Ⅱ-9		・探究的な学習を意識し協働的な活動を取り入れた授業の実施 ・北斗リーダーズプランでの高大連携事業への参加 ・授業でのICT機器活用のノウハウの共有	A	○生徒の悩みを早期に発見できた。 ▲高大連携事業参加と生徒の進路決定についての検証が不足している。追跡調査を実施するなど、検証方法について検討する必要がある。	
	(3)生徒の学力を的確に分析・把握し、より高い学力の定着のため教科、担任、学年、分掌、部活動との連携を十分に図り、適切な対応を実施します。	8	施策Ⅱ-8		・学習指導委員会による個に応じた学習指導の実施 ・登校困難生徒への遠隔授業の実施	A	○科目履修登録をスムーズに行うことができた。 ○問題を抱えた生徒に対する指導について、共通理解を図ることができた。	
進路指導	(1)総合的な探究の時間・LHRを中心に、主体的に自分の考えを持って表現できる力を育成します。三年間の生徒の成長を蓄積し可視化します。各種検例会、データ管理を正確に行い、生徒の希望に沿った具体的な進路指導を行います。	13	施策Ⅱ-13	①生徒・保護者対象アンケートの分析 ②ポートフォリオ等のアンケート配信回数	・1・2年次年間3回、3年次年間2回のキャリアパスポート活用及び講演会や考査毎のポートフォリオ入力 ・新課程入試に対応したデータ処理システムの構築	A	○生徒の進路意識の育成を図ることができた。 ▲データ処理業務の運営に課題がある。負担の標準化、ミスのないチェックシステム構築が急務。	A
	(2)各種模試、テストの結果を分析し、教員間での共有と生徒への還元に努め、教科指導や進路指導の充実を図ります。土曜講座、夏季補習、集中学習会、学習室開放、小論文・面接指導等を行います。	8	施策Ⅱ-8	③校内模試・実力テスト・外部模試の結果分析 ④会終了後の総括・分析、進路実績	・校内模試、実力テスト、校外模試の運営と結果分析の正確な実施及び学年会との連携 ・土曜講座12回、夏季補習8日間、全学年対象の学習室開放、小論文・面接指導の実施	B	○補習や土曜講座など計画通りに実施できた。 ▲各テストの意義や目的を教員・生徒・保護者と共有する必要がある。 ▲進路業務のスリム化を図る必要がある。	
	(3)系統別進路説明会、学年別進路通信や学年集会を通じて、進路意識の高揚につながる情報の提供に努めます。最難関を希望する生徒のために首都圏大学見学会や難関大入試対策講座等を企画します。	13	施策Ⅱ-13		・各取り組みに対する生徒の高い評価 ・岐阜大学や名古屋大学との高大連携事業、へき地区医療研修会等への積極的な参加の促進	A	○進路講演会、説明会、進路だよりの発行等を効果的に実施できた。	
	(4)保護者研修会やClassiでの情報提供に努めます。校内での進路学習の取り組みをClassiやYouTube配信、HP掲載を通して積極的に発信します。	22	施策Ⅳ-22		・進路情報提供に関する保護者・生徒の高い評価 ・保護者向けClassi配信50回、YouTube配信3回、再受験生向けYouTube配信1回	A	○ClassiやYouTubeの配信を、年間を通してこまめに定期的に複数回行うことができた。	
生徒指導	(1)人や価値観の多様性を認め、お互いを尊重できる正しい人権意識の涵養を図ります。また、あらゆる教育活動の場面を通じて自己有用感を持たせます。所轄の警察や地域と連携した啓発活動を行うなど、交通事故防止教育に取り組みます。	2	施策Ⅰ-2	①生徒・保護者アンケートの分析 ②各研修の実施回数、各講話の実施回数、統一LHRの実施回数、関係機関の刊行物の活用回数及び発行回数	・人権統一LHR「いじめ」、スクールカウンセラーによるLHR「SOSの出し方に関する教育」各1回、刊行物の活用3回 ・交通事故等21件、街頭指導 19回	B	○「命を守るプロジェクト」を推進できた。 ○ヘルメット着用率を向上することができた。 ○部活動や警察署と協働し交通安全啓発活動を行った。 ▲交通事故発生件数が依然として多い。	B
	(2)いじめの未然防止はもとより早期発見・早期対応に努め、組織的に対応します。学校教育全体を通じて、いじめを人権問題として捉え、「いじめは人間として絶対に許されない」行為であるという意識を生徒一人一人に徹底します。	3	施策Ⅰ-3	③交通事故・交通違反の件数、街頭指導の回数 ④いじめの認知件数、いじめ防止等対策検討会議実施回数	・いじめの認知件数2件 ・人権統一LHR1回、いじめ防止対策チェックシート2回、いじめに関するアンケート3回 ・いじめ防止等対策検討会議2回	A	○学校独自で作成した教材を使用し、いじめについての統一LHRを実施することができた。 ○迅速な組織的対応ができた。 ▲取組を保護者に伝える工夫が必要である。	
	(3)交通法規・交通マナーを守る、他者への配慮を失わず、迷惑になるような行為を厳に謹むなど、交通モラルの向上を図ります。情報モラル教育を推進し、情報機器の扱いや情報モラルの向上を図ります。	1	施策Ⅰ-1	⑤教育相談週間実施回数、スクールカウンセラー等活用事業の活用回数と要望に対する実施率、心のアンケート実施回数	・集会回数1回、機関紙の発行5回、刊行物活用6回 ・情報モラル講話1回、保護者対象情報モラルに関する研修1回、情報モラルに関する統一LHR1回、関係機関の刊行物活用1回	B	○SNSでの個人情報やフェイクニュース、闇バイトなど自他の安全に留意する教育を強化した。 ▲近隣住民及び外部からの苦情が依然として多い。	
	(4)日常の観察や二者面談、各種検査やアンケートを効果的に活用し、多面的な生徒理解に努めます。特に悩みや課題を抱えている生徒に対しては、保護者や外部関係機関と連携し、生徒個々に合わせた対応を行います。生徒の支援においては、担任だけでなく学年会・教育相談係・養護教諭・スクールカウンセラー等、組織的な支援を強化します。	1	施策Ⅰ-1	⑥生徒心得やガイドライン等の見直しを図ったか否か	・教育相談週間(二者面談)2回、クレバリン検査1回、刊行物活用2回、i-check検査2回、スクールカウンセラー等活用事業100%実施、心のアンケート4回 ・教育相談機関紙の発行5回、教育相談職員研修1回、教育相談教育センター研修参加者3名	A	○生徒や保護者の相談内容に応じてスクールカウンセラーやスクール相談員に繋ぐ割増ができた。 ○緊急性のあるものはスペシャリストサポートで対応することができた。 ▲ほっとプレイスについて、運用の仕組みなどを検討する必要がある。 ▲合理的配慮についてさらに検討の必要がある。	
	(5)年度の開始時に生徒心得やガイドラインを学校ホームページに掲載するとともに、様々な機会を通じて教職員や生徒・保護者、関係機関等に周知を図ります。また、社会通念や時代の進展に照らし、不断の見直し・改善を図ります。	7	施策Ⅰ-7		・次年度に向けての生徒心得やガイドラインの見直し(改訂は実施せず)	B	○教員が外部講演会に参加し、制服の意義と多様性という観点を学ぶことができた。 ○スクールメイキングについて当事者意識を持つ生徒が増えてきた。	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年2月14日

- 全ての業務についてスリム化を図る。
- 授業中心の学習指導体制を維持し、探究的な活動を取り入れた対話型・問題解決型の授業を推進していくために、研究授業や公開授業を通してさらなる授業改善を行う。
- 生徒の実態把握のため、北斗リーダーズプランでの高大連携事業の参加と生徒の進路決定との相関について追跡調査を実施する。
- 今年度の反省をいかりながら新課程入試に対応したミスのない進路データ処理システムを構築する。
- 各種テスト(定期考査、実力テスト、校外模試)の意義や目的を周知するために、職員研修や集会等を実施し、職員や保護者、生徒と共有できるようにする。
- 交通ルールの遵守と自転車運転時のヘルメット着用を呼びかけるなど継続的に交通安全啓発活動を行う。
- 本校でのいじめ防止対策等の取組について、生徒だけでなく保護者にも伝える方法を工夫する。
- 教育相談室におけるホットプレイス運用の仕組みを検討する。

学校関係者評価

実施日：令和7年1月31日

- 進路選択において高みを求めている生徒達は引き寄せあい、さらに高みを目指していく。そういう生徒が多くいることが本校の発信力になる。また、そういう生徒をいかに指導していくかも重要である。
→本校では、本人の将来への希望をいかに叶えるかということに重点を置いた進路指導を行っている。
- 探究活動への取組は年々良くなってきている。特に、名古屋大学を訪問し、留学生へオールイングリッシュでの探究活動プレゼンテーションを行う活動は成果が上がっている。
- 自転車運転時のヘルメット着用率は増加しているようだ。生徒には自転車での転倒や事故のとき、ヘルメットの着用は自分の命を守るということをさらに周知させてほしい。
- 社会参画として、政治は身近なものであるということや自分が社会を作っている一員であることなどの社会をとらえる視点を持てるような指導をさらに取り入れてほしい。
- ルールメイキングなどの本校独自の取組は、本校のアイデンティティとなっていくのではないかな。
- 事情で登校できない生徒へは、どのような指導がなされているのか。
→今年度より状況に応じてオンライン授業を実施している。生徒の学びを止めないサポートを行いたい。